

福井・日之出住民が岡山・真備町訪問

日之出地区の住民らが書いた寄せ書きや義援金を届けに箭田地区を訪問した山田年克会長(右から2人目)ら＝倉敷市真備公民館箭田分館で(ひのでまちづくり協議会提供)



豪雨復興願う熱い応援

福井市日之出地区の住民らが、七月の西日本豪雨で被災した岡山県倉敷市真備町箭田地区を訪問し、夏祭りなどで集めた義援金と応援メッセージを書いた横断幕を届けた。企画したひのでまちづくり協議会の山田年克会長(五七)は「想像以上の被害だった。これから何らかの形で支援を続けたい」と話している。

日之出地区と箭田地区は、二〇〇四年に福井市で開かれた「まちづくり全国交流大会」をきっかけに交流を開始。二月には、箭田小学校の児童が福井市を訪問し、日之出地区の小中学生とスキーを楽しむなどして親睦を深めていた。

日之出地区の住民が七月、箭田地区を訪問する予定だったが、豪雨で中止。報道で豪雨災害を知った山田会長や日之出公民館の前田誠一郎館長らが七月十一日から義援金の募集を開始。同二十九日の地区の夏祭りでは、寄せ書きブースを設け、地区住民らに縦一辺、横二辺の白い布に応援メッセージを書き込んでもら

義援金、横断幕届ける

西日本豪雨 6月28日
日から7月8日にかけて、西日本を中心に全国的に大きな被害を出した豪雨。死者は200人を超え、400人以上の負傷者を出した。豪雨により、約1万7千棟の家屋が全半壊し、最大26万戸で断水し、被害額は1兆円を超えた。岡山県倉敷市真備町は4分の1が浸水したとされる。

(小川祥)

山田会長や前田館長ら五人は十月二十日に箭田地区を訪問。集まった義援金百二十万円と横断幕のほか、日之出小学校児童らによる合唱を収録したCDと千羽鶴を贈った。

その後、浸水した箭田小学校の校舎や住宅などを視察。山田会長によると、箭田小の教室の天井にまでカビが生えていたといい、住宅は乾燥させるために窓や扉が開いた状態で家財道具もなく、とても住める状況ではなかったという。

山田会長は「相互訪問ができるという状態ではないことが分かった。復興の度合いを確認しつつ、これまでとは形を変えた交流のやり方を考えていきたい」と話した。